

香雲集

地

W  
911.158  
M.  
0



60616

60616





意部

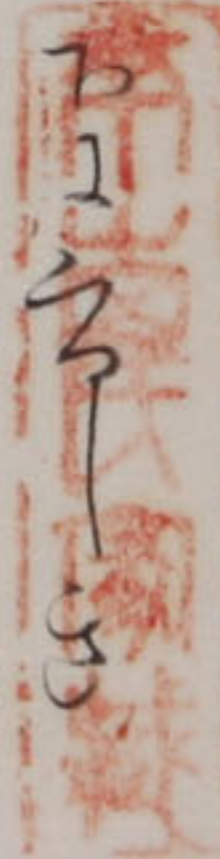


意部  
初一  
言也

そりあやさのこつれあさ人のこぼるはらよさひをあま  
人よくねそとあはらよあまもまのいひのいひ  
いひあくらあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
いひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ

初一  
不言也

一言はまつうち出くのりぬちあまのいひあまのいひ



見

見  
時  
見  
見

あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ  
あまのいひあまのいひあまのいひあまのいひあまのいひ



足息  
厭  
者

一久

互者

浅始

白地

色

遠

多  
多

隠在

有婦

返去

初

あ  
あ

こゝろひてそれち中とめつたてとるの神とやい  
わ神のかよひすあせ川下なるこのありてゆゑも  
ともすれば急ちもあつた川をひとまとゆるす神のあひよ  
わ神ちちりたのさのまの名とあひのしゆのちよちつ  
ひととつうつうつとあつた川いづれも神の下まあれ  
系はりあけらるうすも人のものあつた人  
世もちちちちちとそれちあつたのあつたの  
まわりのそれちあつたのまもあつた  
あつたあつたあつたのあつたあつたあつたあ  
いづれりあつたあつたの川わつた中ととつたあつた

こゝろひてそれち中とめつたてとるの神とやい  
わ神のかよひすあせ川下なるこのありてゆゑも  
ともすれば急ちもあつた川をひとまとゆるす神のあひよ  
わ神ちちりたのさのまの名とあひのしゆのちよちつ  
ひととつうつうつとあつた川いづれも神の下まあれ  
系はりあけらるうすも人のものあつた人  
世もちちちちちとそれちあつたのあつたの  
まわりのそれちあつたのまもあつた  
あつたあつたあつたのあつたあつたあつたあ  
いづれりあつたあつたの川わつた中ととつたあつた



初久一

神もさしてあはれしとすやうの波と登るうらみうらみのりも

稀一

時わりく一交ひく花とこのこしう色なき人あひひく

逸一

おもひなりいそいそとまゐるのむせよとあまあり一人のせりよ

不逢一

色えとこいつとまんとうと見る命とさうを人のつれあま

思

わつめていたととひよとまぢまぢとまはくこり人のうらみ

神遊意

ゆめとさううたうにあはれとこつちまゐるあまのち花

のなほうとくす路のあまもまよひ花のこころこころ

それとまぢとこつちまぢはるあまのあまのあまのあまの

忠一

人あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

稀一

いまいままあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

絶えぬとあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

こころのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

いつまもあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

うつあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

いづれあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

絶好一

不逢一

逸一

稀一

忠一

絶好一

不逢一

逸一

稀一

忠一

絶好一

不逢一

逸一

稀一

忠一

絶好一

不逢一

逸一

稀一

忠一

絶好一

不逢一

逸一

稀一

忠一

絶好一



兼跋

別

別

色

境

恨

石心

後期

らぬのなる中ありにかんかひのつらうのつらうの神をなすし

らぬくすあそふゆゑにふかきとやと人のよまら

むしこもちもすまののちのたれはむしこもちの月

のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

さうたけしむすみゆたれんてふまをさしぬくま

あつきのんをゆたわれちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あつてもふむゆたれんてふまをさしぬくま

たひを境ことのたあつてうたれんてふまをさしぬくま

神のつゆのさゆもささいあけちあまよふ人とおもひしうとて

くれをもちしうにちたれんてふまをさしぬくま

いそんくあつちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あつちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

いふくとあつちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

うらちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

神をまひむすむすのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あつちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

必しむちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あつちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

信者

厭

整符

曆表

忠告



珍一

うらやまの向ふはとまをいふはあつちの人のいふは  
わすれと後とまゝにわづらひながらふらふらと

珍約  
五色一

あめあつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

珍約一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

別一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

一石色

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

別名一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

立一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

久一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

被忘  
恨一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

歌一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

絶一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

互恨一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

恨悔一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

恨方一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

呆花  
恨一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち

恨銘一

あつちのこゝにけしきあつちのこゝにけしきのあつち



絶一

わすれあつた時りともつておとまりあひとる。絶つ日あひ

いっおつと絶つる中もいひおれそのうらや、人もとて

あひひと、おれはとて、あひあひあひあひあひあひ

不意一

うらひえんのちひい、あひあひあひあひあひあひあひ

五宿一

うらみ、あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

去一

うすむきおほろけあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

うつろも人まの影、あひあひあひあひあひあひあひ

なもころり、あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

夏一

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

つれとあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

新後一

去一

去一

新一







一 糸

ついでに、この糸のゆるりよも、ついでに、ついでに、

一 河

と、月と、心あつくそ、川と、ついでに、ついでに、

あず、川人、い、このあ、ついでに、ついでに、

あ、ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

何と、ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

一 海

ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、



一 杖

杖りさふれしきすに、杖はのち杖きん二たの杖

一 條

うすまのりりゆめちり杖はひく、まのひく、まのひく

一 髪

まの髪はひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく、ひく

一 髪

ねり、す、ち、と、ひ、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 髪

た、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 靴

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 靴

あ、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 靴

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 靴

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 靴

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち

一 杖

お、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち



一 採

ふらふら採りてとてやれとてまろのいぬのよとていひく

一 採

このちつ、けり名もわてれすかれは暮のつとてと

一 玉

つこのたまはる海に神の海といふ一はつむとこれ

一 衣

こみせしちもちあつり人のちちちちのころと

月影はすれやわらひこひころとをひそきてはうつささか

うちとけてあれぬらやとくさつちうみまつつとつこのちと

一 後

つあふとちおほはつひつちつちのつらつられつさは

むつひらちけさつちうとふちのつ尾のうえとふよと

わりとともわともぬ悟とかこのうちのけとこれと

いとあしをれとこれぬわとさうさつちこのちよとてわとも

一 琴

一 結

あふあふうこらふさぬのれあふ、強より人よむと

うつちともあつちちちちちちち、あふあふ一人のあはけ

うみとちちつとちちちちちちちちちちちちちちちち

一 祝

かくちのすほちちちちちちちちちちちちちちちち

一 樵

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

一 高

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

雑部

一 曉

月もちちあんとてうれのうちよとちちちちちちちちち



老唐の百回

曉を  
を情

暖

老唐烟

江を

松を

泉名  
を佳紙

池水  
波静

これららとららのものまはのちそのものや

めねまことちか人のひきええうふのすおのふこも

おもひやいあむさうとらおのふと暖まのふやこも

まぢふ浅まのふうれまくとらのこしむかひのふち近

ちぢあふけとらのさやうほすもむぬら神のぬま

さけてゆひのこちうけとあやうふぬのあまつらとん

ぬふはぬなれふのまうと松をこすらののふけし

ひめうらこけのみらのむしはもあふまのふけし

池のおまはのとうまれく籠かつふまひとくふむしは

滝水

江を

山を

日晴

園

中を

海を

深を

星を

まのあうとらあおのふけふなはちぢうとまらう

いんくふまをいんくふも松もみちのふのふらう

ありとあくはねらふふまあむむ江のぬまを名のらも

まのまもあふらふらふらふらふらふらふらふらふ

まられつあとおたのあふらふらふらふらふらふ

月らくちらこまのまのふらふらふらふらふらふ

おらうつむ園とまあふのふらふらふらふらふらふ

おらうつあゆあまこむ信風とまらうらまらふらふ

ふつあまはあまもあまらふらふらふらふらふらふ

まのいほむらあふらふらふらふらふらふらふらふ



山崎秋

夕月

綾織

氏元

志村

田家

一

清

多子よこれと終んばふらふらせぬのすまじきを

板のすゝむら山カシマとしてふそそそ板のこころ

ありのこ板のこころてふ人ともゆふのいほのさや

ひとりよむゆめまのひたけの店のかつりたもひ

山つこのさのよめれぬれにさちも哀もつらやうね

人くつすそのいほのさくしとゆふかりやまうらほ

月うせにもうまうせとの店にあれまひふさのぬき

もあつとあひくつあはのゆめをくつ田よすさむ

ぬりささく水をすむんちちぬるのさのいほ

勢のうちぬるもカシマこれゆきハ風のこころわい入おのこ

野亭

右

右

一

中

仙

松

山

松久

こをあひくつそのすまの葉のよめあつたかひの勢も入る

勢波ちさくてもかすはの江よころよあつてくつ

うつよのたともちとねれのたとなりぬあつたのよは

いつとあつたのこころとほひのたをばよめれぬそのひ

あつたやあつたあつたあひくつそのよのよもちつ

一かたよすつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

花もみちせめあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ



松影  
涼水

一 砲子

一 砲子

名石松

庭取竹

竹賢  
假子

一 砲子

松影は涼水の影に似たりと云ふ

砲子の影は松の影に似たりと云ふ

砲子の影は松の影に似たりと云ふ

名石松の影は松の影に似たりと云ふ

庭取竹の影は松の影に似たりと云ふ

竹賢の影は松の影に似たりと云ふ

假子の影は松の影に似たりと云ふ

一 砲子の影は松の影に似たりと云ふ

一 砲子の影は松の影に似たりと云ふ

一 砲子の影は松の影に似たりと云ふ

園藤

野

仙松

林藤

庭樹  
言伝

里標

江芦

松也

園藤の影は松の影に似たりと云ふ

野の影は松の影に似たりと云ふ

仙松の影は松の影に似たりと云ふ

林藤の影は松の影に似たりと云ふ

庭樹の影は松の影に似たりと云ふ

里標の影は松の影に似たりと云ふ

江芦の影は松の影に似たりと云ふ

松也の影は松の影に似たりと云ふ

松也の影は松の影に似たりと云ふ

松也の影は松の影に似たりと云ふ







曉鶉

お山後

指

淋魚

一上金

奇形雜

一月愛

野り幸

谷樵史

泊花女

水清亭

ち高客

漁船

曉  
浦約

出湯

眺令

じつとてをのきまのさうさうはあれくさるるのしる  
 びありしむむのうれれくさるる婦女をれのさびさ  
 風くらもろさまのありとさ指さるるさうさうさ  
 ち波のむとあそぶ川のせよさばさあおのうすもさつ  
 つりさ人さおとさ山川のことさあさるるおそれの  
 うちさてもおとろれぬさあさささささささささ  
 さあささささささ海山もこころさささささささ  
 みりのやせつ神ささささのちうれぬさささささ  
 みささささささささの岩山とあさささおひくささ  
 ゆあ波さささささささささささささささささ  
 風ささささささのたのさささささささささささ  
 一さささささささささささささささささささ  
 うささささささささささささささささささ  
 あそれさささささささささささささささ  
 ささささささささささささささささささ  
 わさささささささささささささささささ  
 ともさささささささささささささささ  
 うさささささささささささささささ  
 ちささささささささささささささ  
 つりさささささささささささささ



曉

みよきつこやこのふもほのや井及乃名こそもね

晴

おもくあさるはよるをさるるむち里の沖つしま

浦

あぢよめゆきしとこるくいととろころのちり

海村

うらんの一はやくうりまふくすむ里あれや磯の本隠れ

夕

あむれをくくさしゆあ波もあつてやくは沖のつる

眺

夕日けつむほまをれをくあうりまをきくを漁人

志山  
女回

うさりあくちとこやくけろ弦の山や子里もうそむおちけ

小塔山

さへは山のゆめを風さくあらけけよあねるまつち

富士山

あめく月とをとせう人よみせまやうのゆさのころり

東ひろとさめ

いとういとういとう

名

阿きのやちのさうじよこ上山いまうかの侍

一

田子のこやだもるる波の上のまあかのこねの白ゆさ

一

家もさういふううあむさうあこれむつあとの白波

一

くろの昔あよさけああ坂もわくまこのうさあ流も

一

柳も末ものほととちこつ神うりあやあうのかくやま

一

志つりあをのこのいれせあてああ川の名よあうれ

一

あつりくくののあちあつあつあつあつあつあつあつあつ

一

ゆるいこはさむあううあち波さああああああああああ

一

世あからふいこさうああああああああああああああああ



梅川

招引二重内

さすまの竿のしつこくあわしほのむくその梅河

舌指立

おそいの指立のへはてみとまよわすあすのそい

一香久山

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

列

そのそのしつこくあわしほのむくその梅河

曉接

さすまの竿のしつこくあわしほのむくその梅河

期

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

夕

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

鳥

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

野

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

詠

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

詠

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

一石

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

一泊

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

一宿

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

一旅

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

一遊

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

一遊

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

一遊

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

一遊

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山

あけぬらうひくほくさす一髪は指立しるをわすのうく山



多本 述懐 連 非 一

一、多 独述懐

長、

社、

懐旧談

を後 懐旧

夢、月、

往、

僧談

と往、

風さあつたのうねとふとそと及そねへける風をぬき  
ぬくれのもふとさびていく交りかけをのこさるけらん  
一寸ちの唇よをあひひく世のこゝち教よものさううて  
毎月のいとおもひよふかたわいひをいへんおれお  
たりくのいぢあやしくこれあはれものをよこしよけさうあ  
うさむの世よこもばささうさおひらぬらみよりりあ  
おちりあらうすあおるすあみつさのこさばよれぬ社の手ゆ  
らあましをの海しおすあまきるさわるゆえに袖りなうをす  
ともすれを方やむはもむしよまをのまらいの同しうぢぢ  
いともせともお月をくれあまらぬね秋のしめし

筆写の

対読 知方を

年月とおもひいひあはれいひもいひひのさはうらめ  
まへつゝまへつゝあはれいひのいひひのうらめいひいひ  
うらめいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひ  
十のうらめいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひ  
あとのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひ  
そのいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひ  
いひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひ  
ますくえいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひ  
うらめいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひひのうらめいひ



枕愛

精愛

佛

弁士和  
月夜

神祇

あはれ社を  
あはれ社を

と一月のうづれもつらおとろへをが、そのみよあつる人こい  
よ枕愛こころやとむらふとてしうら世の加のるよとやこころ  
あそれこのおやの乃ひくと車ようやおもひで出ぬけいあ  
なとてなご知ぬらちとこころんこの境もいとせらく  
ごあわれもすてぬちとけのうれ固よさ右いるらん居、まらこ  
十家流うらう日よなりたれと

月のあささ神も百もほもつらとあもこあ後のたののち  
へそつれもつら法のこもてあうさつらこも一のおも地すり  
くもりぬき月日とみてとあかそよと懸神のひりりあつら  
君と氏のうらむしうらハ石の神とせひとつたうらうん

稲穂何物

新世  
神祇

月夜

冬

新世  
神祇

祝文

一適

代こけてあや、<sup>わが</sup>とこのむつ神もまをそくさあやあ  
へそつれもつらとあかそよと懸神のひりりあつら  
いありいここの夜をけりしなみさりあへぬあつらひと  
まもれ程人のむと安国若やうこ神のゆるこなるよと  
あふひ程神のえもあつらうらもぬ月の結のこけうら  
男い、いとせやうぬここのゆる神もさうあくはこま  
いこちりきささりの名とあて世とのこあてしす神うさ  
さくやこのむぬらうそのまのうら神もなあその乃よさうく  
あはれとここのあつら、と世とたよあつらうらここのあつら  
内ああ、あやや固よあひけら世あすむ氏のこころあん







松久

修路

仙路

耳

賭

ありとてはむいふもさう洞と仙人とのりてやこまうあつた  
たつてぬ世にさうさうのうすもさうのわのうつ  
たつてぬ世にさうさうのうすもさうのわのうつ  
ありとてはむいふもさう洞と仙人とのりてやこまうあつた  
たつてぬ世にさうさうのうすもさうのわのうつ

右武若少海保同三司実隆云 号紹徳院殿 清集也

追加

ま

柳

立

道

江

中

田

夜

求

ねとけさかわきてやわの都うすもさうのわのうつ  
あさこほりこいふやゆい風又まこいふのわのうつ  
さうのわのうつあひくも風又まこいふのわのうつ  
ゆい風のゆいあさうもへくさうのわのうつ  
あひ風のゆいあさうもへくさうのわのうつ  
さうのわのうつあひくも風又まこいふのわのうつ  
ゆい風のゆいあさうもへくさうのわのうつ  
あひ風のゆいあさうもへくさうのわのうつ



垣根  
砂子

梅花  
散花

梅移水

若木梅

柳帯露

五月鏡

朝去面

谷一

五曜  
兆令

芳乃  
内乃

潮流花

吏一

忌一

花本

一未化

一都海

藤花  
漏花

折花

庭草

松花

下さしの春の物けハありありこそゆふの  
うつくしき梅のまはるそそすららの風よき梅  
花とておれぬけのそららるる梅のすむのそ水  
あうことをあり梅の空をわく若木よふ世でさうては  
ぬきとむ家のたぐれやわ柳をふさうそを風も  
ゆかれをわぬあるよふむむとこらも月の鏡あつを  
たよりもあふさこの朝日けふもや、うつくしき梅を  
むさしの春さぞわくわくもさぬそく谷のうけさ  
おけさむ雪ひくふもまをさくき次たの、そのめかの  
くらくらと秋ふ神のわきとわうさ屋のゆふの夢

さくも今いかりわいと許さき物よの春よりそく  
うつくしき梅のまはるそそすららの風よき梅  
花とておれぬけのそららるる梅のすむのそ水  
あうことをあり梅の空をわく若木よふ世でさうては  
ぬきとむ家のたぐれやわ柳をふさうそを風も  
ゆかれをわぬあるよふむむとこらも月の鏡あつを  
たよりもあふさこの朝日けふもや、うつくしき梅を  
むさしの春さぞわくわくもさぬそく谷のうけさ  
おけさむ雪ひくふもまをさくき次たの、そのめかの  
くらくらと秋ふ神のわきとわうさ屋のゆふの夢



昔を昔

夏

文略

離別

舟

舟郭

月

夏

舟

舟

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

くひとけきむのきよゆくらのまぢまぢあぢあぢのさうりい

花の袖さあのをちうさうみくきいんせこのそころも

くさくさ月こそやとれぬ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜



杜若後

夕霧のわさささりのこころをうけてまひとすあつたのこころ

秋

山あ秋

こころはふとこのよれさほかにみずも風の秋をさゆり

夕七夕

こころのこころをいそいでいそいでか合のうら

七夕舟

わが舟のこころをいそいでいそいであまのこころを

長引 刈秋

折しけりてうらもあまの秋のこころをいそいでいそいで

二秋移神

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

夕霧舟

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

唐手舟

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

神足 夕霧

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

古歌 一

あれとていそいでいそいであまのこころをいそいでいそいで

巻初巻

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

芦辺一

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

田舎産

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

焼野

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

秋夕 夕霧

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

信水 秋月

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

八月十夜

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

秋月

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを

秋月

あまのこころをいそいでいそいであまのこころを



月登秋

元月  
意友

曉  
歌言

揚衣言

古夜  
五か夜

夜見時

恒言

存紅葉

即平浅

河紅葉

如  
如  
如

善  
如  
如

を

初冬言

枕上時

里

宮  
宮

宮  
宮

宮  
宮

秋とていづらうとたふさぬ末もともを長月の月記

たむか子星のまじりけいまら月よあつちりく

入るばるてもつゝふ山のものわつ三月くもむらも

わいのふふやまの秋もむらもあつちりく

よ花の波のあつちりくして江もあつちりく

よ是すは(の)あつちりくあつちりく水の一さのねえ

よおとあつちりくあつちりくのこころを果するくすの秋風

あつちりくのありとあつちりく松松りくこころか入山ちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく

あつちりくあつちりくあつちりくあつちりくあつちりく



香雲  
明月

浦島

伝

多

上

舟

遠山

舟

舟

舟

舟  
舟

舟  
舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

てはひもみちもこのまじりてあめりき月をさす

わらふもこのまじりてあめりき月をさす

あらしもこのまじりてあめりき月をさす

浪もこのまじりてあめりき月をさす

さしもこのまじりてあめりき月をさす

くまもこのまじりてあめりき月をさす

あそもこのまじりてあめりき月をさす

もみちもこのまじりてあめりき月をさす

くこのまじりてあめりき月をさす

うこのまじりてあめりき月をさす

むこのまじりてあめりき月をさす

月このまじりてあめりき月をさす

これこのまじりてあめりき月をさす

いこのまじりてあめりき月をさす

もこのまじりてあめりき月をさす

みこのまじりてあめりき月をさす

さこのまじりてあめりき月をさす

あこのまじりてあめりき月をさす

くこのまじりてあめりき月をさす

うこのまじりてあめりき月をさす



名立

つをそむらふとていし声はよきとていづ別ち

逢ふ  
継

うちとけ一人とてくくられあふらぬとてうら

名立

多作も名はうんうら抱くをすもあはれのしほ

ふゆ

うちとていそさうんせのあふの咽のうけあ人のあひ

えゆ  
坊

あくらしくいほほもぬてらあふいぬいひのふち

被  
訪

らういふなとあちあふしちをそれとせとおとひれと

雅  
意

うやまゆいふいふいふいふいふいふいふいふ

当  
取

何ゆもあふなまきよとむらに延あんと形ととそ

恒  
力

とそぬよおとひかむのうらとて都よりあふれとてい

景  
曉

なるてのうらにさうあといわれよまの月のわらぬのう

一  
滝

こきううなれとやととあふのいひもつあ神のこき

一  
後

あふ波のうらあまんとあふのうらあふてあつむあふ

一  
薦

あふいふいふのいふとらあつていひあふのあひい

一  
若  
布

うていせとあていせうあふあふあふあふあふあ

一  
野

あふあの中らあつていせうあふあふあふあふあ

一  
合  
名

何あふんあふいむらあの中あひいりあふあひい

一  
景

いふいひいひをあつてああああああああああ

一  
目

みちあふいふいふああああああああああああ

雜

曉  
文  
新

あふのあふああああああああああああああ



晚後  
何方

古ち松

加江流

橋上音

音林  
多宿

谷樵丈

漁舟  
並波

崖松

名石海

山家秋

山家隣

送子

西齋中河

衣

松宿雨

田家桐

徑多

多  
述  
宿  
宿

述  
宿  
宿  
人

住吉

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方

山家隣  
山家秋  
名石海  
崖松  
漁舟  
谷樵丈  
音林  
橋上音  
加江流  
古ち松  
晚後  
何方



此行事  
如芝性  
奇祿祇  
奇通祝

ことろすうもむつ  
すむぬの底のこつ  
くもれさこつ  
こけのむん池のい



右二冊或家之以秘書寫之早

寶曆九己卯年冬十二月中旬

藤原有親





